



草加市長 浅井 昌志氏

## 市長のメッセージ

草加市は、「やさしさがあふれるまち 草加」をテーマに、市民や事業者の皆様とともに「快適都市」の実現に向けたまちづくりを進めています。

本市では、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけとした時流の変化に対応するため、消費喚起等による経済の下支えとともに、市内企業の新分野展開や業態転換などの経営革新を支援する「産業強靱化戦略」に取り組んで参りました。

今後も、社会・経済情勢等の変化に的確かつ柔軟に対応していくための企業支援施策を広く展開していくことにより、市内産業の発展に寄与できるよう、市政運営を行って参ります。

## はじめに

草加市は埼玉県南東部に位置し、市域の南部を東京都足立区に接している、面積27.46km<sup>2</sup>、人口約25万人の市である。

交通は地下鉄日比谷線や半蔵門線と直通運転をしている東武スカイツリーラインと国道4号が市を南北に縦断、東京外環自動車道とその高架下を走る国道298号が横断し、交通の利便性は極めて高い。

草加の歴史は古く、寛永7(1630)年に江戸幕府公認の伝馬宿となってから、五街道のひとつ、日光街道の宿場町として発展した。松尾芭蕉も「おくのほそ道」の旅で草加宿に足跡を残している。寛政4(1792)年には宿場北端の街道沿いに松が植樹され、街道を行き交う旅人に草加松原(表紙写真)として知られるようになった。草加松原は平成26(2014)年に国の名勝に指定され、今も多くの人々が訪れる。

草加市は「草加せんべい」により、その名が全国的に知られている。今でも、宿場町が広がっていた草加駅付近を中心に、市内には「草加せんべい」店が多くみられる。

## 草加松原団地の建て替え

昭和33(1958)年の市制施行時に約3.5万人であった市の人口は、昭和37年に、当時「東洋一のマンモス団地」と言われた草加松原団地(日本住宅公団、現UR都市機構が建設)ができて急増した。

草加松原団地は、建物の老朽化により、平成15年から建替事業が始まり、事業は今も続いている。平成10年から市とURにより、平成13年には埼玉県も加わって新たなまちづくりの方針について検討が重ねられた。

新たなまちづくりの特徴としては、獨協大学前<草加松原>駅周辺は、高層化したUR賃貸住宅や民間マンションにより住居を集約するとともに、子育て関連施設や市立図書館などの公共施設、民間による医療・高齢者福祉施設、駅前の立地を生かした商業施設など、様々なサービスを提供する施設を集約し、「コンパクトシティの実現」を目指している。駅から離れた地域には、歩行者のアクセス道路として駅から緑道で結び、ウォークアブルなまちを形成、ゆとりのある戸建住宅が建設されるほか、近くを通る国道4号沿いには商業施設を誘致して、快適な住環境が整備される見込みだ。

また、地区の中心は「生活交流拠点ゾーン」とされ、建替事業に参加している草加市、獨協大学、UR



建て替えが進む草加松原団地

## 草加市概要

|                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 人口(2022年2月1日現在)   | 250,648人             |
| 世帯数(同上)           | 121,486世帯            |
| 平均年齢(2021年1月1日現在) | 45.9歳                |
| 面積                | 27.46km <sup>2</sup> |
| 製造業事業所数(工業統計)     | 393所                 |
| 製造品出荷額等(同上)       | 4,689.6億円            |
| 卸・小売業事業所数(経済センサス) | 1,283店               |
| 商品販売額(同上)         | 4,595.4億円            |
| 公共下水道普及率          | 97.9%                |
| 舗装率               | 98.3%                |

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- 東武スカイツリーライン 草加駅、谷塚駅、獨協大学前(草加松原)駅、新田駅
- 東京外環自動車道 草加ICから市役所まで約4km

それぞれが、まちのにぎわいづくりにつながる施設を整備する予定となっている。市は多目的利用が可能な児童館やテニスコートを、獨協大学は地域に開いた大学関連施設を設置し、URは商業施設を誘致する予定だ。

既に駅周辺のまちなみは整い、今後は駅から離れた地域において、戸建住宅が順次完成していく見込みである。

## ★リノベーションまちづくり

草加市は、現状では人口は増加しているものの、近い将来、人口が減少し、空き家や空き店舗が増加することが懸念されている。一方で、転入者が多く、市民間の交流が不足しているという課題があった。

そこで、草加市ではリノベーションまちづくり事業に取り組んでいる。同事業は、まちづくりに関心の高い人にリノベーションスクールに参加してもらい、空き家や空き店舗などの遊休不動産をリノベーションの手法によって活用し、まちを活性化させていく取り



リノベーションスクール参加者が生み出した事業のひとつ「コワーキングスペーストリノス」

組みである。スクール参加者が、地域に合った事業を提案し、地域課題の解決や新しいコミュニティの形成につなげていく。平成28年度から、草加駅周辺の日光街道沿いエリアを対象に実施し、地元に着した店舗や施設が新たに生まれ、住民どうしのコミュニケーションが活発に行われるなど、まちの活性化につながった。令和3年度は隣駅の谷塚駅周辺エリアを対象に展開し、魅力ある地域づくりをさらに進めている。

## ★草加柿木地区産業団地整備

草加市は従来から市内に工業団地が2カ所あったが、さらに市内に雇用の場を確保すること、市北東部に唯一残っている市街化調整区域を有効活用することを目的に、埼玉県と連携して市北東部の柿木地区に産業団地を整備している。

東京外環自動車道からも近い、東埼玉道路(国道4号バイパス)沿いの立地で、交通利便性の良さから、すでに多くの食品製造業が進出を決めている。昨年12月には一部の企業が操業を開始、令和6年を目途にすべての企業の操業が予定されている。周囲の田園風景との調和を図るため、公園や調整池、緑地を配置するなど、環境にやさしい産業団地となることを目指している。

草加松原団地の建て替え、産業団地の整備が行われるなど、草加市は変革期にあり、今後一層の発展が期待される。

(太田富雄)